

平成16年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ハタハタ

学名 *Arctoscopus japonicus*

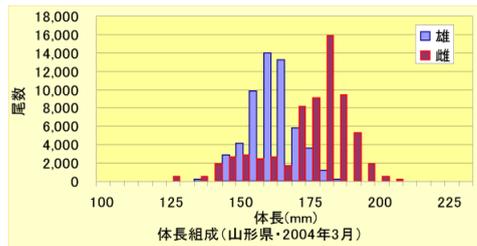
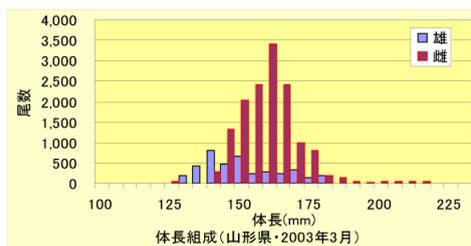
系群名 日本海北部系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学的特性

- 寿命: 5歳
- 成熟開始年齢: 1歳
- 産卵期・産卵場: 12月の極短い一時期、沿岸の藻場、秋田県での産卵が多い
- 索餌期・索餌場: 未成魚期以降の分布と回遊に関する知見は少ない
- 食性: 端脚類、オキアミ類、魚類
- 捕食者: 大型魚類によって捕食されるが、詳細は不明

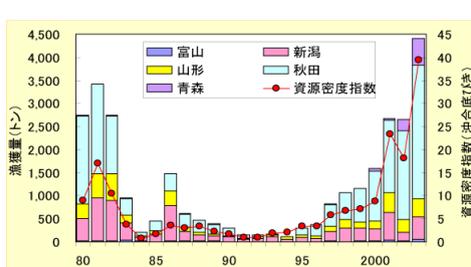
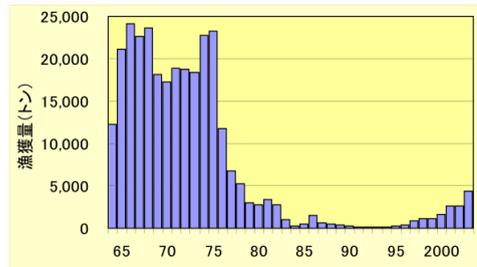


漁業の特徴

日本海北部のハタハタは秋田県での漁獲が多く、産卵・接岸期を対象とした定置網と刺網による漁獲割合が大きい(沿岸漁業)。また、ほぼ全域において小型底びき網や沖合底びき網によって漁獲される。

漁獲の動向

当海域におけるハタハタの漁獲は、1965～1975年には20,000トン前後の高い水準にあったが、1976年以降急落し、1991年には158トンにまで落ち込むという劇的な変化を示した。秋田県は3年間の採捕禁止(1992～1995年)を実施し、その後も青森、秋田、山形、新潟の4県では、自主的・公的な漁獲規制を実施している。このような措置の下で、近年、漁獲量は増加傾向にある。2003年には底びき網による漁獲が好調で、4,400トンの漁獲量を記録した。



資源評価法

漁獲量の推移とともに、沖合底びき網漁業漁獲成績報告書に基づく漁場別漁獲統計を解析し、1980年以降の資源密度指数*の推移を調べた。加えて、秋田、山形、新潟の3県における漁獲物の体長組成から、近年の加入状況、漁獲物の年齢構成を考察した。*資源密度指数:10分マス目で設定された漁区ごとの月別CPUE(漁獲重量(kg)/ひき網回数)を一定期間(年または月)、ある海域内(中海区または小海区)で集計した値を有漁漁区数で除して求めた。

資源状態

日本海北部のハタハタ資源は、近年の全般的な漁獲動向等から、1990年代前半に比べて明らかな回復を示している。2001年生まれ群の豊度が高く、2003年にはこの年級主体の漁獲が続いた。2004年現在、この年級(満3歳)と新たに加入する2003年生まれ群(満1歳)を中心とした高い水準の資源が存在すると思われる。この加入群の大きさは想定域を出ず不確定要素もの残るが、2005年当初の北部海域のハタハタ資源は、1990年代半ば以降では非常に水準が高くなると予想される。

管理方策

秋田県をはじめ、本資源を利用する各県では、若齢魚保護や漁獲努力量を押さえる試みが続けられている。近年、奇数年生まれの高水準であった年級に支えられ、資源量は増大傾向にあると思われる。すでに取り控えされるなど資源の利用に限界があることから、資源の無駄遣いをしないよう、漁獲努力を現状程度に抑えて資源を保全することが必要である。ABClimitは基準となる過去の漁獲量(ここでは2002～2003年の平均値)に係数1.0を乗じた。ABCtargetは

水準	動向
高	➔
中	
低	
	増加傾向

資源状況が1～2年の間に大きく変動する過去の傾向や今後の加入状況についての不確定要素を考慮し、ABClimitの0.8(標準値)倍とした。

	2005年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	3,500トン	Cave2-yr	-	-
ABCtarget	2,800トン	0.8ABClimit	-	-

資源評価のまとめ

- 漁獲量は、漁獲に関する自主的・公的規制のもとで増加している
- 2003年の漁獲量は、底びき網と年末の沿岸漁とも多く、4400トンとなった
- 2001年生まれ群の豊度が高く、今年加入する2003年生まれ群の水準も高いと思われる

管理方策のまとめ

- 漁獲努力を現状程度に抑えて資源を保全する
- 最近2年間の平均漁獲量をもとにABCを算定
- 2004年生まれ群の加入状況を把握することが必要
- 水産庁では2003年7月に「資源回復計画」を作成

資源評価は毎年更新されます。